

受難週 日毎の糧



2020 頌栄教会

受難節最後の主日(今年は4月5日)は、【棕櫚の主日】と呼ばれ、この日から受難週がはじまります。イエスのエルサレム入城から、十字架につけられ、死んで葬られるまでのキリストの最後の一週間の歩みを覚えて過ごします。

イエスが子ろばに乗ってエルサレムに入城したとき、人々は自分の服を道に敷き、棕櫚の葉を振って歓迎しました。「ホサナ、主の名によって来られる方に、祝福があるように。いと高きところにホサナ」(マタイ12・9)と。人々は、自分たちをローマの支配から解放してくれる偉大な王が来たと思ったのです。この人々がイエスに抱いていた『願い・望み』は、わたしたち誰しもが抱くものでしょう。しかし、受難週を過ごすわたしたちは思いを巡らさなければなりません。イエスのエルサレム入城を喜び迎えた人々とイエスを十字架につけた人々とは、異なる人々なのでしょうか。

主と共に旅をしてきた弟子たちは、主の言葉を誰よりも近くで聞き、主が起こされる奇跡や主が人々と関わる姿を幾度となく目にしてきた人々です。そして、主を心から尊敬し慕っていた人たちともいえるでしょう。「たと

え、御一緒に死なねばならなくても、あなたのことを知らないなどと決して申しません」(同26・35)ペトロのこの言葉に嘘、偽りの思いはあったでしょうか。ペトロなりの覚悟と決心が込められていたのではないのでしょうか。しかし、わたしたちは知っています。人間の決心や覚悟がいかに脆く弱いことを。

主の受難の歩みをたどることは、十字架の道を歩む主に目を向けると同時に、その主を取り巻く人々に思いを向けることでもあります。主を十字架にかけ殺したのは、わたしたち一人ひとりの罪なのです。聖書に記されている人間の姿(言葉や行い)に、自らの姿を重ねることなしに主が歩まれる十字架の道をたどることはできません。受難週は、わたしたちの罪の深さをしっかりと見つめつつ、さらに深い神の愛に導かれて歩む一週間です。わたしたちのために十字架を背負われた主は、今日何を呼びかけているのでしょうか。日々、御言葉に聴き、主と共に十字架の道を一歩ずつ歩んでいきましょう。

憐れみ深い天の父、わたしたちの受難週の歩みを導いてください。主の十字架が、わたしたちを回心へと導き、復活の光へと向かわせてくださいますように。

日毎の糧

「わたしがあなたがたに話した言葉は

霊であり、命である。」

ヨハネ 6・63

主の言葉は、わたしたちの命の糧です。わたしたちの命を生かし、日々の歩みを教え導く言葉を、日毎に主ご自身がわたしたちに語ってくださいます。主の生きた言葉を聴くことによって、わたしたちは命の糧をいただくことができます。

受難週を主と共に、そして頌栄教会の家族と共に歩んでいけるように、このような冊子を作成いたしました。聖書を持ち歩くことが困難な場合も、この冊子を用い、日々、主の言葉に耳を傾けましょう。一日の糧をいただくのですから、起床後、あるいは午前の時間に行うことをお勧めします。通勤・通学の移動時にもこの冊子を開いていたいただけることを願っています。 二〇二〇年三月三十一日

日毎に、

・ 旧約聖書

・ 詩編

・ 福音書

が定められています。御言葉が心の内に留まることを願いながら、朗読することが大切です。

そして、しばらく黙想のときをもちましょう。

今日、主はわたしに何を呼びかけておられるのか。

今日、どのように御言葉を生きることができるのか。

主との交わりの中で思いを巡らし、主への応答として最後に自分の言葉で祈禱をお捧げください。

洗足木曜日（4月9日）、受難日（4月10日）には、この『日毎の糧』とともに、別刷の『洗足木曜日の礼拝』『受難日の礼拝』をお捧げください。



4月6日(月) 受難の月曜日

祈禱

憐れみ深い神、あなたの民の心を清めてください。
 虐げられている人々と共にあなたの救いの御業を
 ほめたたえることができますように。主イエス・キ
 リストの御名によつて。アーメン

旧約聖書(哀歌1・1―11)

なにゆえ、独りで座っているのか

人に溢れていたこの都が。

やもめとなつてしまったのか

多くの民の女王であつたこの都が。

奴隸となつてしまったのか

国々の姫君であつたこの都が。

夜もすがら泣き、頬に涙が流れる。

彼女を愛した人のだれも、今は慰めを与えない。

友は皆、彼女を欺き、ことごとく敵となつた。

貧苦と重い苦役の末にユダは捕囚となつて行き
 異国の民の中に座り、憩いは得られず

苦難のはざまに追い詰められてしまった。

シオンに上る道は嘆く

祭りに集う人がもはやいないのを。

シオンの城門はすべて荒廃し、祭司らは呻く。

シオンの苦しみを、おとめらは悲しむ。

シオンの背きは甚だしかった。

主は懲らしめようと、敵がはびこることを許し

苦しめる者らを頭とされた。

彼女の子らはとりことなり

苦しめる者らの前を、引かれて行つた。

栄光はことごとくおとめシオンを去り

その君侯らは野の鹿となつた。

青草を求めたが得られず

疲れ果ててなお、追い立てられてゆく。

エルサレムは心に留める

貧しく放浪の旅に出た日を

いにしえから彼女のものであった

宝物のすべてを。

苦しめる者らの手に落ちた彼女の民を

助ける者はない。

絶えゆくさまを見て、彼らは笑っている。

エルサレムは罪に罪を重ね

笑いものになった。

恥があげられたので

重んじてくれた者にも軽んじられる。

彼女は呻きつつ身を引く。

衣の裾には汚れが付いている。

彼女は行く末を心に留めなかったのだ。

落ちぶれたさまは驚くばかり。

慰める者はない。

「御覧ください、主よ

わたしの惨めさを、敵の驕りを。」

宝物のすべてに敵は手を伸ばした。

彼女は見た、異国の民が聖所を侵すのを。

聖なる集会に連なることを

主に禁じられた者らが。

彼女の民は皆、パンを求めて呻く。

宝物を食べ物に換えて命をつなごうとする。

「御覧ください、主よ

わたしのむさぼるさまを見てください。」

詩編（詩編 26）

主よ、あなたの裁きを望みます。

わたしは完全な道を歩いてきました。

主に信頼して、よろめいたことはありません。

主よ、わたしを調べ、試み

はらわたと心を火をもって試してください。

あなたの慈しみはわたしの目の前にあり

4 あなたのまことに従って歩き続けています。

偽る者と共に座らず 欺く者の仲間に入らず

悪事を謀る者の集いを憎み

主に逆らう者と共に座ることをしません。

主よ、わたしは手を洗って潔白を示し

あなたの祭壇を廻り

感謝の歌声を響かせ

驚くべき御業をことごとく語り伝えます。

主よ、あなたのいます家

あなたの栄光の宿るところをわたしは慕います。

わたしの魂を罪ある者の魂と共に

わたしの命を流血を犯す者の命と共に

取り上げないでください。

彼らの手は汚れた行いに馴れ

その右の手には奪った物が満ちています。

わたしは完全な道を歩きます。

わたしを憐れみ、贖ってください。

わたしの足はまっすぐな道に立っています。

聖歌隊と共にわたしは主をたたえます。

福音書（マタイ21・12―17）

わたしの家は、祈りの家

それから、イエスは神殿の境内に入り、そこで売り買いをしていた人々を皆追い出し、両替人の台や鳩を売る者の腰掛けを倒された。そして言われた。

「こう書いてある。

『わたしの家は、祈りの家と呼ばれるべきである。』

ところが、あなたたちは

それを強盗の巢にしている。」

境内では目の見えない人や足の不自由な人たちがそばに寄って来たので、イエスはこれらの人々をいやされた。他方、祭司長たちや、律法学者たちは、イエスがなさった不思議な業を見、境内で子供たちまで叫んで、「ダビデの子にホサナ」と言うのを聞いて腹を立て、イエスに言った。「子供たちが何と言っ

ているか、聞こえるか。」イエスは言われた。「聞こえる。あなたたちこそ、『幼子や乳飲み子の口に、あなたは賛美を歌わせた』という言葉をまだ読んだことがないのか。」それから、イエスは彼らと別れ、都を出てベタニアに行き、そこにお泊まりになった。

黙想（沈黙のうちに御言葉を味わいましょう）

祈祷

4月7日（火） 受難の火曜日

祈禱

憐れみ深い神、わたしたちを『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして』主を愛する者とならせてください。あなたへの愛を行いをもつて人々に伝えていくことができますように。主イエス・キリストの御名によつて。アーメン

旧約聖書（哀歌 2・11―17）

わたしの目は涙にかすみ、胸は裂ける。

わたしの民の娘が打ち砕かれたので

わたしのはらわたしは溶けて地に流れる。

幼子も乳飲み子も町の広場で衰えてゆく。

幼子は母に言う

パンはどこ、ぶどう酒はどこ、と。

都の広場で傷つき、衰えて

母のふところに抱かれ、息絶えてゆく。

おとめエルサレムよ

あなたを何にたとえ、何の証しとしよう。

おとめシオンよ

あなたを何になぞらえて慰めよう。

海のように深い痛手を負ったあなたを

誰が癒せよう。

預言者はあなたに託宣を与えたが

むなしい、偽りの言葉ばかりであつた。

あなたを立ち直らせるには

一度、罪をあばくべきなのに

むなしく、迷わすことを

あなたに向かつて告げるばかりであつた。

道行く人はだれもかれも

手をたたいてあなたを嘲る。

おとめエルサレムよ、あなたに向かつて

口笛を吹き、頭を振つてはやしたてる

「麗しさの極み、全地の喜びと

たたえられた都がこれか」と。

敵は皆、あなたに向かつて大口を開け

齒をむき、口笛を吹き、そして言う

「滅ぼし尽くしたぞ。

ああ、これこそ待ちに待った日だ。

たしかに見届けた」と。

主は計画したことを実現し

約束したことを果たされる方。

昔、命じておかれたところのゆえに

あなたを破壊し、容赦されなかった。

敵はそのあなたを見て喜び

あなたを苦しめる者らは角を上げる。

詩編（詩編88）

主よ、わたしを救ってくださいる神よ

昼は、助けを求めて叫び

夜も、御前におります。

わたしの祈りが御もとに届きますように。

わたしの声に耳を傾けてください。

わたしの魂は苦難を味わい尽くし

命は陰府にのぞんでいます。

穴に下る者のうちに数えられ

力を失った者とされ

汚れた者と見なされ

死人のうちに放たれて

墓に横たわる者となりました。

あなたはこのような者に心を留められません。

彼らは御手から切り離されています。

あなたは地の底の穴にわたしを置かれます

影に閉ざされた所、暗闇の地に。

あなたの憤りがわたしを押さえつけ

あなたの起こす波がわたしを苦しめます。

あなたはわたしから

親しい者を遠ざけられました。

彼らにとってわたしは忌むべき者となりました。

8 わたしは閉じ込められて、出られません。

苦悩に目は衰え

来る日も来る日も、主よ、あなたを呼び

あなたに向かって手を広げています。

あなたが死者に対して驚くべき御業をなさったり

死霊が起き上がった

あなたに感謝したりすることがあるでしょうか。

墓の中であなたの慈しみが

滅びの国であなたのまことが

語られたりするでしょうか。

闇の中で驚くべき御業が

忘却の地で恵みの御業が

告げ知らされたりするでしょうか。

主よ、わたしはあなたに叫びます。

朝ごとに祈りは御前に向かいます。

主よ、なぜわたしの魂を突き放し

なぜ御顔をわたしに隠しておられるのですか。

わたしは若い時から苦しんで来ました。

今は、死を待ちます。

あなたの怒りを身に負い、絶えようとしています。

あなたの憤りがわたしを圧倒し

あなたを恐れてわたしは滅びます。

それは大水のように

絶え間なくわたしの周りに渦巻き

いつせいに襲いかかります。

愛する者も友も

あなたはわたしから遠ざけてしまわれました。

今、わたしに親しいのは暗闇だけです。

福音書（マタイ 26・6―16）

わたしに良いことをしてくれたのだ

さて、イエスがベタニアで重い皮膚病の人シモンの家におられたとき、一人の女が、極めて高価な香油の入った石膏の壺を持って近寄り、食事の席に着いておられるイエスの頭に香油を注ぎかけた。弟子たちはこれを見て、憤慨して言った。「なぜ、こんな無駄遣いをするのか。高く売って、貧しい人々に施

黙想

することができたのに。」イエスはこれを知って言われた。「なぜ、この人を困らせるのか。わたしに良いことをしてくれたのだ。貧しい人々はいつも一緒にいるわがたと一緒にいるが、わたしはいつも一緒にいるわけではない。この人はわたしの体に香油を注いで、わたしを葬る準備をしてくれた。はつきり言っておく。世界中どこでも、この福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。」そのとき、十二人の一人で、イスカリオテのユダという者が、祭司長たちのところへ行き、「あの男をあなたたちに引き渡せば、幾らくれますか」と言った。そこで、彼らは銀貨三十枚を支払うことにした。そのときから、ユダはイエスを引き渡そうと、良い機会をねらっていた。

4月8日（水） 受難の水曜日

祈禱

憐れみ深い神、人の心にある迷いと疑いの闇を、十字架の光で照らしてください。わたしたちを赦すために招いてくださる主の御声を、聖霊によって聴くことができますように。主イエス・キリストの御名によって。アーメン

旧約聖書（哀歌 3・40―51）

わたしたちは自らの道を探し求めて

主に立ち帰ろう。

天にいます神に向かって

両手を上げ心も挙げて言おう。

わたしたちは、背き逆らいました。

あなたは、お赦しになりませんでした。

あなたは怒りに包まれて追い迫り

わたしたちを打ち殺して容赦なさらない。

あなたは雲の中に御自分をとぎし
どんな祈りもさえぎられます。

わたしたちを塵、芥のようにして

諸国の民の中にお見捨てになりました。

敵は皆、わたしたちに向かって大口を開く。

恐れとおののきが、騒乱と破壊が、襲いかかる。

わたしの民の娘は打ち砕かれ

わたしの目は滝のように涙を流す。

わたしの目は休むことなく涙を流し続ける。

主が天から見下ろし

目を留めてくださるときまで。

わたしの都の娘らを見て

わたしの目は魂に痛みをもたらず。

詩編（詩編 42）

涸れた谷に鹿が水を求めるように

神よ、わたしの魂はあなたを求める。

神に、命の神に、わたしの魂は渴く。
いつ御前に出て

神の御顔を仰ぐことができるのか。

昼も夜も、わたしの糧は涙ばかり。

人は絶え間なく言う

「お前の神はどこにいる」と。

わたしは魂を注ぎ出し、思い起こす

喜び歌い感謝をささげる声の中を

祭りに集う人の群れと共に進み

神の家に入り、ひれ伏したことを。

なぜうなだれるのか、わたしの魂よ

なぜ呻くのか。

神を待ち望め。

わたしはなお、告白しよう

「御顔こそ、わたしの救い」と。

わたしの神よ。

わたしの魂はうなだれて、あなたを思い起こす。

ヨルダンの地から、ヘルモンとミザルの山から

あなたの注ぐ激流のとどろきにこたえて

深淵は深淵に呼びわり

砕け散るあなたの波はわたしを越えて行く。

昼、主は命じて慈しみをわたしに送り

夜、主の歌がわたしと共にある

わたしの命の神への祈りが。

わたしの岩、わたしの神に言おう。

「なぜ、わたしをお忘れになったのか。

なぜ、わたしは敵に虐げられ

嘆きつつ歩くのか。」

わたしを苦しめる者はわたしの骨を砕き

絶え間なく嘲って言う

「お前の神はどこにいる」と。

なぜうなだれるのか、わたしの魂よ

なぜ呻くのか。

神を待ち望め。

わたしはなお、告白しよう

「御顔こそ、わたしの救い」と。

わたしの神よ。

福音書（マタイ 26・17―25）

わたしの時が近づいた。

一緒に過ぎ越しの食事をする。

除酵祭の第一日に、弟子たちがイエスのところに来て、「どこに、過越の食事をなさる用意をいたしましようか」と言った。イエスは言われた。「都のあの人のところに行つてこう言いなさい。『先生が、「わたしの時が近づいた。お宅で弟子たちと一緒に過越の食事をする」と言っています。』」弟子たちは、イエスに命じられたとおりにして、過越の食事を準備した。夕方になると、イエスは十二人と一緒に食事の席に着かれた。一同が食事をしているとき、イエスは言われた。「はっきり言っておくが、あなたがた

のうちの一人がわたしを裏切ろうとしている。」弟子たちは非常に心を痛めて、「主よ、まさかわたしのことでは」と代わる代わる言い始めた。イエスはお答えになった。「わたしと一緒に手で鉢に食べ物を浸した者が、わたしを裏切る。人の子は、聖書に書いてあるとおりに、去つて行く。だが、人の子を裏切るその者は不幸だ。生まれなかった方が、その者のためによかった。」イエスを裏切ろうとしていたユダが口をはさんで、「先生、まさかわたしのことでは」と言うと、イエスは言われた。「それはあなたの言つたことだ。」

黙想

祈祷

4月9日(木) 洗足木曜日(聖木曜日)

祈禱

憐れみ深い神、あなたはわたしたちのすべてを知っておられます。わたしたちが自らの姿を省み、主の食卓に招かれる喜びを悟ることができますように。主イエス・キリストの御名によって。アーメン

旧約聖書(出エジプト24・1―11)

主はモーセに言われた。「あなたは、アロン、ナダブ、アビフ、およびイスラエルの七十人の長老と一緒に主のもとに登りなさい。あなたたちは遠く離れて、ひれ伏さねばならない。しかし、モーセだけは主に近づくことができる。その他の者は近づいてはならない。民は彼と共に登ることはできない。」

モーセは戻って、主のすべての言葉とすべての法を民に読み聞かせると、民は皆、声を一つにして答えて、「わたしたちは、主が語られた言葉をすべて行います」と言った。モーセは主の言葉をすべて書き記

し、朝早く起きて、山のふもとに祭壇を築き、十二の石の柱をイスラエルの十二部族のために建てた。彼はイスラエルの人々の若者を遣わし、焼き尽くす献げ物をささげさせ、更に和解の献げ物として主に雄牛をささげさせた。モーセは血の半分を取って鉢に入れて、残りの半分を祭壇に振りかけると、契約の書を取り、民に読んで聞かせた。彼らが、「わたしたちは主が語られたことをすべて行い、守ります」と言うと、モーセは血を取り、民に振りかけて言った。「見よ、これは主がこれらの言葉に基づいてあなたたちと結ばれた契約の血である。」

モーセはアロン、ナダブ、アビフおよびイスラエルの七十人の長老と一緒に登って行った。彼らがイスラエルの神を見ると、その御足の下にはサファイアの敷石のような物があり、それはまさに大空のように澄んでいた。神はイスラエルの民の代表者たちに向かって手を伸ばされなかったもので、彼らは神を見て、食べ、また飲んだ。

14 詩編（詩編 64）

神よ、悩み訴えるわたしの声をお聞きください。
敵の脅威からわたしの命をお守りください。

わたしを隠してください

さいなむ者の集いから、悪を行う者の騒ぎから。

彼らは舌を鋭い剣とし

毒を含む言葉を矢としてつがえ

隠れた所から無垢な人を射ようと構え

突然射かけて、恐れもしません。

彼らは悪事にだけ、共謀して罠を仕掛け

「見抜かれることはない」と言います。

巧妙に悪を謀り

「我らの謀は巧妙で完全だ。

人は胸に深慮を隠す」と言います。

神は彼らに矢を射かけ

突然、彼らは討たれるでしょう。

自分の舌がつまずきのものになり

見る人は皆、頭を振って侮るでしょう。

人は皆、恐れて神の働きを認め
御業に目覚めるでしょう。

主に従う人は主を避けどころとし、喜び祝い
心のまつすぐな人は皆、主によって誇ります。

福音書（マタイ 26・26―35）

取って食べなさい。

一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、
賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与え
ながら言われた。「取って食べなさい。これはわたし
の体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、
彼らに渡して言われた。「皆、この杯から飲みなさい。
これは、罪が赦されるように、多くの人のために流
されるわたしの血、契約の血である。言っておくが、
わたしの父の国であなたがたと共に新たに飲むそ
の日まで、今後どのような実から作ったものを飲むこ
とは決してあるまい。」一同は賛美の歌をうたつて
から、オリーブ山へ出かけた。

そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「今夜、あなたがたは皆わたしにつまずく。

『わたしは羊飼いを打つ。』

すると、羊の群れは散ってしまう』

と書いてあるからだ。しかし、わたしは復活した後、あなたがたより先にガリラヤへ行く。」すると、ペトロが、「たとえば、みんながあなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません」と言った。イエスは言われた。「はつきり言っておく。あなたは今夜、鶏が鳴く前に、三度わたしのことを知らないと言うだろう。」ペトロは、「たとえば、御一緒に死なねばならなくなっても、あなたのことを知らないなどとは決して申しません」と言った。弟子たちも皆、同じように言った。

4月10日（金） 受難日（聖金曜日）

祈禱

憐れみ深い神、十字架につけられたキリストの御姿をわたしたちの心に刻んでください。わたしのすべてをあなたに捧げることができますように。主イエス・キリストの御名によって。アーメン

旧約聖書（哀歌 5・15―22）

わたしたちの心は楽しむことを忘れ
踊りは喪の嘆きに変わった。

冠は頭から落ちた。

いかに災いなことか。

わたしたちは罪を犯したのだ。

それゆえ、心は病み

この有様に目はかすんでゆく。

シオンの山は荒れ果て、狐がそこを行く。

主よ、あなたはとこしえにいまし

代々に続く御座にいます方。

なぜ、いつまでもわたしたちを忘れ

果てしなく見捨てておかれるのですか。

主よ、御もとに立ち帰らせてください

わたしたちは立ち帰ります。

わたしたちの日々を新しくして

昔のようにしてください。

あなたは激しく憤り

わたしたちをまったく見捨てられました。

詩編（詩編 40）

主にのみ、わたしは望みをおいていた。

主は耳を傾けて、叫びを聞いてくださった。

滅びの穴、泥沼からわたしを引き上げ

わたしの足を岩の上に立たせ／しっかりと歩ませ

わたしの口に新しい歌を

わたしたちの神への賛美を授けてくださった。

人はこぞって主を仰ぎ見

主を畏れ敬い、主に依り頼む。

いかに幸いなことか、主に信頼をおく人

ラハブを信ずる者にくみせず

欺きの教えに従わない人は。

わたしの神、主よ

あなたは多くの不思議な業を成し遂げられます。

あなたに並ぶものはありません。

わたしたちに対する数知れない御計らいを

わたしは語り伝えて行きます。

あなたはいけにえも、穀物の供え物も望まず

焼き尽くす供え物も

罪の代償の供え物も求めず

ただ、わたしの耳を開いてくださいました。

そこでわたしは申します。

御覧ください、わたしは来ております。

わたしのことは

巻物に記されております。

わたしの神よ、御旨を行うことをわたしは望み

あなたの教えを胸に刻み

大いなる集会で正しく良い知らせを伝え

決して唇を閉じません。

主よ、あなたはそれをご存じです。

恵みの御業を心に秘めておくことなく

大いなる集会でああなたの真実と救いを語り

慈しみとまことを隠さずに語りました。

主よ、あなたも憐れみの心を閉ざすことなく

慈しみとまことによつて

いつもわたしをお守りください。

悪はわたしにからみつき、数えきれません。

わたしは自分の罪に捕えられ

何も見えなくなりました。

その数は髪の毛よりも多く

わたしは心挫けています。

主よ、走り寄ってわたしを救ってください。

主よ、急いでわたしを助けてください。

18 わたしの命を奪おうとねらっている者が

恥を受け、嘲られ

わたしを災いに遭わせようと望む者が

侮られて退き

わたしに向かつてはやし立てる者が

恥を受けて破滅しますように。

あなたを尋ね求める人が

あなたによって喜び祝い、楽しみ

御救いを愛する人が

主をあがめよいつも歌いますように。

主よ、わたしは貧しく身を屈めています。

わたしのためにお計らいください。

あなたはわたしの助け、わたしの逃れ場。

わたしの神よ、速やかに来てください。

福音書（マタイ 26・57―58、69―27・2）

そんな人は知らない。

人々はイエスを捕らえると、大祭司カイアファのところへ連れて行った。そこには、律法学者たちや長老たちが集まっていた。ペトロは遠く離れてイエスに従い、大祭司の屋敷の中庭まで行き、事の成り行きを見ようと、中に入って、下役たちと一緒に座っていた。

ペトロは外にいて中庭に座っていた。そこへ一人の女中が近寄って来て、「あなたもガラヤのイエスと一緒にいた」と言った。ペトロは皆の前でそれを打ち消して、「何のことを言っているのか、わたしには分からない」と言った。ペトロが門の方に行く、ほかの女中が彼に目を留め、居合わせた人々に、「この人はナザレのイエスと一緒にいました」と言った。そこで、ペトロは再び、「そんな人は知らない」と誓って打ち消した。しばらくして、そこにいた人々が近寄って来て、ペトロに言った。「確かに、お前

もあの連中の仲間だ。言葉遣いでそれが分かる。」
そのとき、ペトロは呪いの言葉さえ口にしながら、
「そんな人は知らない」と誓い始めた。するとすぐ、
鶏が鳴いた。ペトロは、「鶏が鳴く前に、あなたは三
度わたしを知らないと言うだろう」と言われたイエ
スの言葉を思い出した。そして外に出て、激しく泣
いた。

夜が明けると、祭司長たちと民の長老たち一同は、
イエスを殺そうと相談した。そして、イエスを縛っ
て引いて行き、総督ピラトに渡した。

黙想

祈祷

4月11日(土)

聖土曜日

祈禱

憐れみ深い神、闇の力に覆われるとき、その深みにあなたの希望が宿っています。主イエスの言葉を心に留め、夜明けが来ることをすべてのあなたの民と共に信じることができまうように。主イエス・キリストの御名によつて。アーメン

旧約聖書（創世記7・10―24）

七日が過ぎて、洪水が地上に起こつた。ノアの生涯の第六百年、第二の月の十七日、この日、大いなる深淵の源がごとごとく裂け、天の窓が開かれた。雨が四十日四十夜地上に降り続いたが、まさにこの日、ノアも、息子のセム、ハム、ヤフェト、ノアの妻、この三人の息子の嫁たちも、箱舟に入った。彼らと共にそれぞれの獣、それぞれの家畜、それぞれの地を這うもの、それぞれの鳥、小鳥や翼のあるものすべて、命の霊をもつ肉なるものは、二つずつノ

アのもとに来て箱舟に入った。神が命じられたとおりに、すべて肉なるものの雄と雌とが来た。主は、ノアの後ろで戸を閉ざされた。

洪水は四十日間地上を覆つた。水は次第に増して箱舟を押し上げ、箱舟は大地を離れて浮かんた。水は勢力を増し、地の上に大いにみなぎり、箱舟は水の面を漂つた。水はますます勢いを加えて地上にみなぎり、およそ天の下にある高い山はすべて覆われた。水は勢いを増して更にその上十五アンマに達し、山々を覆つた。

地上で動いていた肉なるものはすべて、鳥も家畜も獣も地に群がり這うものも人も、ごとごとく息絶えた。乾いた地のすべてのもののうち、その鼻に命の息と霊のあるものはごとごとく死んだ。地の面にいた生き物はすべて、人をはじめ、家畜、這うもの、空の鳥に至るまでぬぐい去られた。彼らは大地からぬぐい去られ、ノアと、彼と共に箱舟にいたものだけが残つた。水は百五十日の間、地上で勢いを失わなかつた。

詩編（詩編23）

主は羊飼ひ、わたしには何も欠けることがない。

主はわたしを青草の原に休ませ

憩いの水のほとりに伴ひ

魂を生き返らせてくださる。

主は御名にふさわしく

わたしを正しい道に導かれる。

死の陰の谷を行くときも

わたしは災いを恐れない。

あなたがわたしと共にいてくださる。

あなたの鞭、あなたの杖

それがわたしを力づける。

わたしを苦しめる者を前にしても

あなたはわたしに食卓を整えてくださる。

わたしの頭に香油を注ぎ

わたしの杯を溢れさせてくださる。

命のある限り

恵みと慈しみはいつもわたしを追う。

主の家にわたしは帰り

生涯、そこにとどまるであろう。

福音書（マタイ27・57―66）

三日後に復活する

夕方になると、アリマタヤ出身の金持ちでヨセフという人が来た。この人もイエスの弟子であった。

この人がピラトのところに行つて、イエスの遺体を渡してくれるようにお願いした。そこでピラトは、

渡すようにと命じた。ヨセフはイエスの遺体を受け取ると、きれいな亜麻布に包み、岩に掘った自分の

新しい墓の中に納め、墓の入り口には大きな石を転がしておいて立ち去った。マグダラのマリアともう

一人のマリアとはそこに残り、墓の方を向いて座っていた。

明くる日、すなわち、準備の日の翌日、祭司長たちとファリサイ派の人々は、ピラトのところに集まって、こう言った。「閣下、人を惑わすあの者がまだ生きていたとき、『自分は三日後に復活する』と言っていたのを、わたしたちは思い出しました。ですから、三日目まで墓を見張るように命令してください。そうでないと、弟子たちが来て死体を盗み出し、『イエスは死者の中から復活した』などと民衆に言いふらすかもしれません。そうになると、人々は前よりもひどく惑わされることになります。」ピラトは言った。「あなたたちには、番兵がいるはずだ。行って、しっかりと見張らせるがよい。」そこで、彼らは行って墓の石に封印をし、番兵をおいた。

黙想

祈祷